



徳島県の農耕地土壌の実態

(2005年版)

農業研究所では県内240地点の水田、普通畑、樹園地の実態調査を1979(昭和54)年から5年ごと〔1巡目(1979～83), 2巡目(1984～88), 3巡目(1989～93), 4巡目(1994～98), 5巡目(1999～2003)〕に実施し、同じ調査地点の作土の深さや土壌中に含まれる肥料成分などの調査、分析をおこなってきました。今回は2003年(5巡目調査)までの25年間の農耕地土壌の実態の推移を紹介します。

① 水田

4巡目までは作土の深さが目標値(15cm)を下回っていましたが、5巡目では目標値を上回りました。全炭素(有機物含量)が少ないところがみられました。

② 普通畑

作土が浅いところがありました。20cm以上は確保したいところです。全炭素(有機物含量)は水田よりも少なく、完熟堆肥などの有機物の補給が必要です。pH(土壌酸度)やリン酸含量は上昇しています。リン酸資材のやりすぎに注意して下さい。

③ 樹園地

作土の深さが大きく減少しました。土壌のpH(土壌酸度)はやや酸性が強く、平均で6以下でした。全炭素(有機物含量)は増加傾向がみられ、やや過剰気味です。

リン酸も土壌中に多く集積していました。資材のやりすぎに注意して下さい。

土壌診断を利用して適切な肥料や資材の施用に努めましょう。

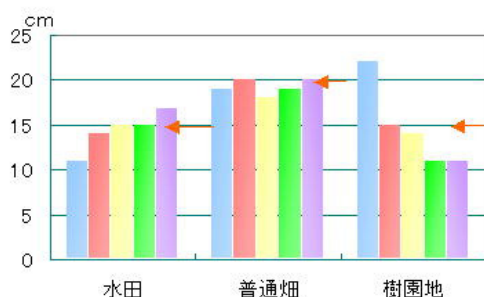


図1 作土の深さ

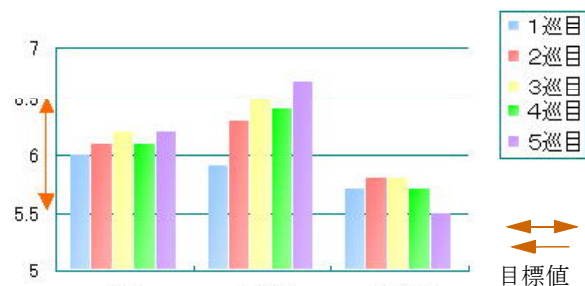


図2 pH(土壌酸度)

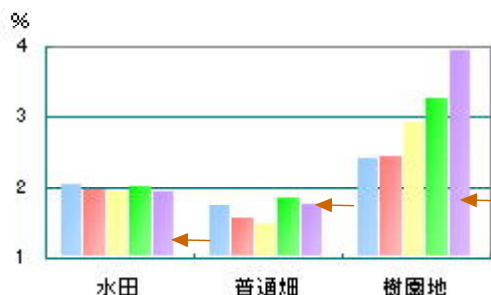


図3 全炭素(有機物含量)

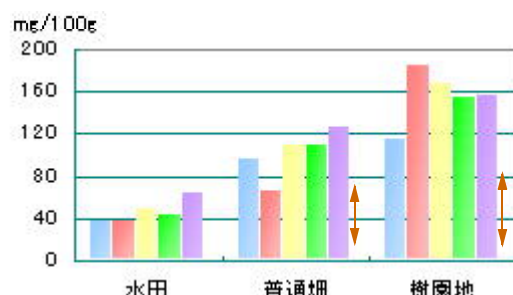


図4 有効態リン酸

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 生産環境担当

TEL (088) 674-1660 FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>